

もくじ
はじめに……3
日本のこよみ
二十四節気・七十二候
……4

立夏
〔りつか〕
夏のはじまるころ……6
カエルが鳴くころ……8
タケノコが出るころ……9
野鳥に出会えるころ……10

小満
〔しょうまん〕
ムギが実るころ……12
初夏のおとずれを知らせる花……13
野菜の花が咲くころ……14

芒種
〔ぼうしゅ〕
カマキリがふ化するころ……16
ホタルが光るころ……17
どこが光るの?……17
くらべてみよう……17
ウメの実がなるころ……18
夏のくだもの繁まれ!……19

夏至
〔げし〕
アヤメが咲くころ……20
くらべてみよう……21
アサガオが咲くころ……22
夏の花繁まれ!……23

小暑
〔しょうしょ〕
ハスの花が咲くころ……24
ハスとレンコン……24
セミが鳴くころ……25
セミとぬけがらずかん……25
夏の虫繁まれ!……26

大暑
〔たいしょ〕
ヒマワリが咲くころ……28

生物季節観測から見る
季節のおとずれを知らせる生き物……30

はじめに
夏といえば太陽の季節です。夏至には昼間が1年で最も長くなりますし、1年で最も暑くなるのも大暑のころです。生き物たちは、その太陽のエネルギーのおかげで成長し、子どもを育てることができるのです。もちろん人間も例外ではありません。お米や野菜やくだものなど私たちが毎日いただいている食べ物も、みな夏の太陽を受けて育った生き物なのです。セミの声を聞いた時、スイカを食べた時、太陽の恵みであることを思い出してください。日本の夏の素晴らしさを実感できることでしょう。

ウメの実がなるころ

ウメ

七十二候
ウメのみ黄ばむ

ウメの実が黄ばんで熟す

春に花開いた木々の果実が実り、夏のくだものが出回りはじめるのがこのころです。七十二候に「梅子黄（うめのみきばむ）」がありますが、「ウメの実が熟すころの雨」が「梅雨」の語源ともいわれます。ウメの実は梅干や梅酒などに使われます。

ビワ



あたたかいところの果物で、産地は長崎県や千葉県が有名。



サクランボ

サクランボはセイヨウミザクラの果実で多くの品種がある。

モモ



甘くやわらかなモモは、白桃系は生食、黄桃系は主に缶詰などに。



イチジク

実の中に小さなつぶつぶがたくさんあるが、これはすべて花で、熟すと甘くなる。



メロン



実の表面に網目のあるもの・ないもの、果肉が黄緑のもの、だいたい色のもの、黄白色のものなど多くの品種がある。

夏のくだもの
集まれ！

スイカ

夏のくだもの代表格で、原産地はアフリカの大地。何千年も前から食べられ、品種改良されてきた。



小暑

しょうしよ

7月7日ごろ

ハスの花が咲くころ



ハス

花色にはピンク、白、黄色がある。
朝早く開き、昼ごろには閉じる。

七十二候

ハスはじめて開く

ハスの花が咲きはじめる



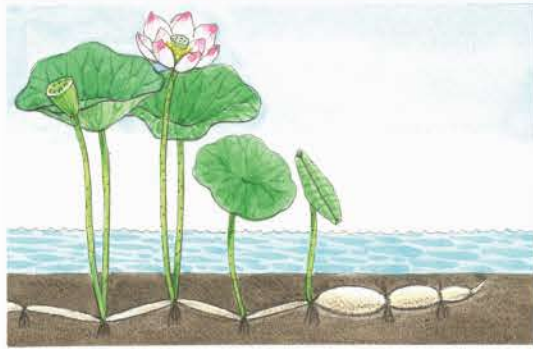
小暑とは梅雨が明けて、いよいよ本格的な夏の暑さがはじまるころです。梅雨の間、大きな丸い葉の上に雨粒をのせていたハス。やがて根元からぐんぐんのびてきたつぼみがしだいにふくらんで、ある朝はじけるように大きな花を咲かせます。

ハスとレンコン

池や沼に生え、ハス田でも栽培されるハスは水底の土中を横にのびる地下茎でふえます。この空気をとす穴のあいた地下茎がレンコンです。



レンコンだけでなく、葉柄も花茎もどこを切っても穴がある。



レンコンの節の部分から根や葉をのばして成長する。

セミが鳴くころ



アブラゼミ

梅雨明けとほぼ同時にセミが鳴きはじめます。平地ではふつうニイニイゼミが最初で、山地ではヒグラシが、これにクマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミが加わると夏も真っ盛りです。やがてツクツクボウシの鳴き声が秋が近いことを教えてくれます。

セミとぬけがらずかん

木の根元では、いろいろなセミのぬけがらを見つけることができます。種類によって大きさや形、色つやなどがちがうので調べてみましょう。



ツクツクボウシ



ヒグラシ



アブラゼミ



クマゼミ



ニイニイゼミ



ミンミンゼミ

